▽寫生の場處として何處として可ならざるはなしであるが、極手近な處にイクラもあるから、遠方迄出掛けるに及ばぬ、家の廻りの井戸端の一隅も面白からう、門外一歩往來の雪もよい畫題である、狹い小路、橋の袂などもよく、河岸地にいろ〳〵の物が積まれてあるその上の雪も風情のあるものである。寒くつて戸外へ出るのが厭なら、硝子窓越しに庭の松の木を寫すもよく、隣りの草屋根を描くもよからう。

▽不斷の雪を見る北國、または一度降つたらいつ迄も融けぬといふ寒國ではゆる〳〵雪の寫生が出來るが、暖國で雪を描くといふことは甚だ忙しいものである、降り止んでからでは間に合はぬ場合もあるから何處かの軒下へ入つてやるつもりで降つてゐるうちから出掛けるがよい、東京近處では可なり久しく雪は地上にあるが、風のために樹枝の雪を寫すことが出來ぬ。

▽朝とか夕とか雪に色のある場合には、輪廓をとつて後ち直ちにその時の色で畫面全體を塗つて仕舞つて、それから細部分を描いてゆくと、大して調子に誤りがなく出來る。

▽雪の寫生の時注意すべきは眼を大切にすることである、それは輝いた雪などを久しく見詰めぬことで寫生中もたえず他の暗い處へ眼を轉して休息を與へねばならぬ、そして久しく同一の處を見てゐると、直感した現象が變つて寫生の目的を達し得ないことになる。

▽冬にあらざる他の季節に見る雪、即ち深山の雪や遠山の雪にいつては他日重ねて所感を述べることとする。（完）

雪を描くに、**インヂゴー**、**バルト**、**レモンエルロー**、**カーマイン**は雪の色に使用し、**ニユートラルチント**、**マダーブラウン**、**パンダイキブラウン**、**アイホリーブラツク**、**オリユーヴグリヱン**、**バントアンバー**は、雪なき處の色に用ひる。雪を見ると、單に白ばかりで、他の色彩を見出す事が難いものであるが、最も明なる色と影とを比較して見れば、影の何色なるかを認める事が出來る。朝夕の日光の映ずるときは淡橙黃又は淡黃となり影色は紫となる事がある（丸山晩霞氏『女性と趣味』の一節）